

ただいま発掘中！

# 藤堂家染井屋敷の発掘調査

2009年9月29日

駒込三～七丁目一帯は、かつて染井と呼ばれていました。江戸時代、染井通りの南側は津藩藤堂家の下屋敷・抱屋敷（通称「染井屋敷」）が広がっていました。津藩藤堂家は高虎を初代藩主とし、32万石余の所領をもつ外様大名です。

8月17日から始まった今回の発掘調査（染井遺跡 三菱地所駒込四丁目第二マンション地区）は、広大な染井屋敷の一画にあたります。

調査区の北端からは、柱跡である小穴と小穴が等間隔で西から東へ横一列に並ぶ状況が見つかっています。掘立柱（ほったてばしら）の建物（塀か柵のような施設）が想定されます。この場所が屋敷地内のある1つの境界であったことを示しているのでしょうか。

これまでの染井屋敷の発掘調査では、たくさんの井戸が発見されていますが、調査区でも複数の井戸が検出されています。井戸の調査では底に達する前になんと水が湧き出てきました。現地表面から5m下からと、意外と浅い地点に湧水地点があるんですね。井戸からは実にさまざま遺物が出土しました。陶磁器に混じって板材や木製品が、腐らずに見つかったのです。素掘りの井戸ではなく、板組みの井戸側を設置していたことを窺わせる貴重な資料です。

このほかには、地下室（ちかむろ）、埋甕（うめがめ）、埋桶（うめおけ）、生垣が、また十数枚重なった銭と共にかわらけ数枚を据えた埋納（まいのう）と推測される遺構などが確認されています。また遺物では、町屋の遺跡では見られないような上等なお碗や皿、屋根瓦、そしてとても珍しい伊賀焼（いがやき）などが出土しています。

以上が前半戦で見つかった主な遺構群です。後半戦の調査概要は、紙を改めて報告する予定です。なお、予定しております遺跡見学会では発見された遺構や出土した遺物、加えて調査中である発掘作業も実際にご覧になる事ができますのでご期待下さい。





出土した遺物を観察中。陶磁器からは、およその年代が推測できます。



手前と右奥の穴が江戸時代の井戸です。



埋甕の検出状況。写真撮影用にきれいにします。



調査区北側の遺構群。南から撮影。



調査区端では白の丸柱が一行に並んでいます。これが柱跡である柱穴列です。



左下写真の柱跡の断面を横からみた状況です。規模や間隔がほぼ同様に造られている状況がよく分かります。